

おわりに

飼料分析業務は、地味な仕事です。それは業務の表面にでなくて、ひっそりと飼養管理の一部分を成しているからです。分析の依頼側からは、「あれもできないのか？、これもできないのか？」と問い合わせがあり、また「分析結果を出すのが遅い！」とクレームを言われて、いつも気に病み、割に合わない仕事だと常々考えます。表面上は「出来ないものは、出来ない！」とはっきりと言っていますが、少しでも早く分析結果を返そうと努力をしています。それは、私にとって一番辛いのは“分析結果を有効利用されない場合”だからです。そこで、少しでも分析業務と分析結果の意味について理解を深めようと、この「飼料分析とその利用」を書かせて貰いました。この本は、分析で得られた結果の意味することについて、現在、出版されている書籍・雑誌や研究会の報告文献等を参考に、出来る限りわかりやすく、書いたつもりでいます。この「飼料分析とその利用」を読むことによって、分析業務と分析結果が意味していることへの理解が深まれば、幸いです。

平成12年3月

技術部飼料種苗課

飼料分析係長 平岡久明



(飼料種苗課スタッフ：左端は筆者)

家畜改良センター 技術マニュアル 5

飼料分析とその利用

著者／平岡久明

発行／農林水産省 家畜改良センター

企画調整室 企画調整課

発行日／平成12年3月

印刷所／不二印刷株式会社